

探究的な学びにおけるNIEの活用のあり方

指定校1年次 上田市立神科小学校 北川原 勉 宮崎 彩夏

(1) 本年度のNIE活動の概要

本校では、全校研究テーマ「主体的に問いや願いを立て、協働的な学びを通して課題に挑戦する児童の育成」を受け、重点研究部会の中に「NIE・総合」部会を立ち上げた。部会研究テーマ「探究的な学びにおけるNIEの活用のあり方」のもと、実践を重ねるべく研究をスタートさせた。本年度取り組みたいこととして以下の5つを考えた。

- ①児童の発達段階に応じた学習活動をピックアップし、活動テーマを設定する
- ②単元や授業において、新聞(NIE)の効果的な活用方法やタイミングを探る
- ③担当学年・教科等で、新聞が活用できる場面を考え授業実践を行い、蓄積する
- ④信毎学習支援サイト「シンマイ EGG」の活用を中心に、学校職員全体で研修機会をもつ
- ⑤NIE(新聞)コーナーを設置し、図書館との連携を図る

低・中・高学年それぞれにおいて授業を行い、新聞活用の方法やタイミングについて実践を重ねることができた。子どもたちが新聞をより身近に感じることができ、学習に生かすことができるという意識が持てたと思う。一方、研究指定校として多くの新聞や学習支援サイトを利用できる環境だからこそその成果といえる面もある。今後も新聞の活用方法の追究と児童が新聞にふれる環境づくりを進めていきたい。

(2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は、全校児童679名、学級数26(うち特別支援学級5)である。家庭での新聞購読など、児童が実際に新聞を手にとって読むことは少なく、新聞に接する機会が乏しい実態がうかがえる。その中で5年生は、日々の宿題として「こども新聞」の読み取りに取り組んでおり、簡単な言葉で書かれた記事を読むことを日常的に続けている。また、学校で「こども新聞」を購読し、図書館に閲覧台を設置するなどしているが、教師が授業で新聞を扱うことも含めて、積極的に活用してきたわけではなかった。

(3) NIE活動の狙い(育てたい力)

- ・新聞を身近に感じ、自分の生活に関わることや社会の動きを知る手段として新聞を活用していく意欲を育てたい。
- ・新聞を活用することによって、児童が自ら「問い」や「願い」を立て、追究し続けることのできる探究の学びにつなげたい。

(4) 公開授業以外のNIEの取り組みの状況

①NIEコーナーの設置

各社の新聞を閲覧できるコーナーを設置して、新聞に親しむ機会を増やした。

②職員研修

信濃毎日新聞社から講師を招いて、学習支援サイト「シンマイ EGG」の活用を中心に、学校職員全体で研修の機会をもった。

③授業実践

	学年 教科・領域等	ねらい・主眼
1	2年生 生活科 「気になる写真を 選んでみよう」	新聞を見て「お気に入りの1枚」を選び、その写真に「タイトルをつける」、「その理由を書く」ことができる。活動を通し記事の中身について想像することそのものを楽しんだり、記事の中身を想像したりして、新聞にふれるきっかけができる。
2	4年生 国語 「新聞を作ろう」	長野見学でメモをとったことをもとにして、それぞれの記事で伝えたいことを考えて新聞を作ることができる。 (信毎さんの出前授業で、新聞の書き方を教えていただいた。)
3	6年生 総合的な 学習の時間 「自分史を作ろう」	自らの成長の軌跡を当時の新聞記事等の記録と関連付けて振り返る活動を通し、個人の歩みが常に社会の動きと共にあることを自覚するとともに、自己を支える人々への感謝や、未来の社会において主体的に生きようとする意欲を育む。

(5) 公開授業などの活動内容

1 単元名 5年生 国語「生活の中で読もう『新聞を読もう』」

～情報を整理し読み手の立場に立って伝える文章を書こう～

2 単元設定の理由

5年3組の児童は、これまで教科書の説明文を中心に、文章の構造を分析して要点をまとめる学習を行ってきた。また、「書くこと」の学習において、手紙や紹介文を通して「誰に伝えるか」によって言葉遣いや構成を考えたり、説得力や伝える力を高めたりする工夫について学んできている。現在、毎日の宿題として「こども新聞」の読み取りに取り組んでおり、簡単な言葉で書かれた記事を読み取ることを日常的に続けている。しかし、大人向けの新聞は目にする機会はあまりなく、内容を意識して読み取る経験も少ない。自分が選んだ興味のある記事や2年生が喜んでくれそうな記事をペア学年の2年生に紹介するという活動を通して、記事の要旨を正確にとらえるようにしたい。また、新聞記事を読み、要旨をまとめて2年生に紹介することを通して、新聞を身近に感じ、自分の生活に関わることや社会の動きを知る手段として新聞を活用していく意欲を育てたい。

本単元は、興味をもった新聞記事を読み、書かれた内容を低学年児童にわかりやすく書き直す学習である。前段階として、新聞の構成や特徴について学ぶ。その後、記事を比較して読むことを通して、論の進め方などに着目し記事の文章を読み取る力を身につけるようにしたい。さらに、とらえた要旨や要点をもとに低学年児童にもわかる文章に書き直す活動を行う。身近にある情報媒体として新聞を題材にして、自分の言葉を使って、なおかつ伝える相手が具体的になることでより自分事として主体的に学びに向かうことができる。また、ペアでの相互評価や推敲のアドバイスをしあう活動をすることで、別の考え方にふれ、自分の考えを深めることができる。さらに、低学年児童の国語の力や興味・関心など、読み手の実態を考えることを出発点とし、友だちと書いた文章を読み合ったり、実際に読み聞かせ合ったりする機会を設けることで、自ら問い直す探究の学びにつなげることも期待できる。

以上のことから、とらえた要旨や要点を整理し、相手を意識した文章を書くことによって

「目的に応じて必要な情報を見つけ、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」が育っていくと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

(1) 文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。

【知識および技能】(1)カ

(2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【思考力・判断力・表現力等】B(1)ウ

(3) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

【思考力・判断力・表現力等】C(1)ア

(4) 新聞記事からさまざまな情報を読み取ることに関心をもち、言葉を適切に選んで、工夫して表現しようとしている。

【学びに向かう力，人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	書くこと	読むこと	
①文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。	②目的や意図に応じて簡単に書くとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	③事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	④新聞記事からさまざまな情報を読み取ることに関心をもち、言葉を適切に選んで、工夫して表現しようとしている。

5 単元展開の概要 (全6時間)

時	○学習活動	・指導、支援	評価	その他
1	○新聞記事の構成や特徴を知り、要旨や論の進め方などについて考える。	・実際の紙面を見せながら、見出し・リード文・本文等の新聞の構成や特徴を確認する。 ・気になる記事を選んで、見出しやリード文からくわしい情報を読み取るようにする。	①	・教科書 ・新聞
2	○複数の記事を比較して読み、必要な情報を見つけたり、書かれ方の違いについて考えたりする。	・全国紙と地方紙の記事を読み、相違点を見つけていく中で、書き手や読み手の立場の違いや論の進め方について考えるよう促す。	③	・教科書 ・新聞
3	○読み手を意識して重要な情報を読み取り、再構成する工夫や方法を考える。	・実際の紙面や新聞社Webアプリの検索機能を使って、興味のある記事を探し、要旨や要点をまとめるよう促す。 ・低学年児童に伝えるために文章の再構成を促し、具体的な工夫や方法を確認する。	③	・新聞 ・シンマイEGG

4	○整理した要点をもとに、構成を考えながら文章の下書きをする。	・低学年にわかりやすい文章にするための工夫や方法に基づいて書き直すようにする。 ・記事の再構成ではあるが、自分が興味を持った点や記事に対する感想を盛り込むよう促す。	②	・新聞 ・ロイロノート
5 本時	○文章を読み合い、相互評価を通じて自分の文章の改善点を見つけて練り直す。	・友だちが書いた記事の文章を読み、テキストカードを使ってよさや改善点を伝え合うよう促す。 ・友だちからのアドバイスや、工夫のポイントに基づいて、改めて自分の文章を練り直すようにする。	②	・新聞 ・ロイロノート
6	○完成した記事を発表しあい、情報の整理と表現の工夫についてふりかえる。	・できあがった文章（記事）をお互いに発表させ、低学年に伝わるものになっているかを確認する。 ・情報の整理の仕方や、わかりやすい文章に書き直す工夫についてふりかえるよう促す。	④	・ロイロノート

6 本時案

(1) 主眼（全6時間扱いの第5時）

第1・2時で新聞の構成の特徴を学んだ子どもたちが、身近な地方紙の中から興味のある記事を選び、ペア学年の2年生向けの子ども新聞を作る場面で、友だちどうしで書いた文章を読み合い、お互いにアドバイスし合うことを通して、読み手の立場になって伝える文章を作ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	○発問・予想される児童の反応	・指導 <u>評価</u>	備考	時間
導入	1. 前時の活動を振り返り、本時の見通しをもつ。 2. 本時のめあてを確認する。	○前回、どんな学習をしましたか。 ・ペア学級の2年生に紹介したい新聞記事を選んだな。 ・5W1Hや記事で伝えたいことをまとめたな。 ・2年生にもわかりやすくなったかな。 ○友だちが選んだ記事やまとめを読み合い、2年生に伝わりやすいかアドバイスをしあいましょう。 ・友だちの記事やまとめはどんなことが書いてあるのかな。 ・どんなことをアドバイスし	・前時まで、自分たちで選んだ記事について、どんなことに気を付けて記事をまとめたかを問う。 ・事前に決めたペアと活動することを確認する。 ・アドバイスの観点として、5W1Hや記事の中で一番読者（2年生）に伝えたいことをおさえたものである	クロームブック (シンマイEGG)(ロイロノートまとめシート)	5

		<p>たらしいのかな。</p>	<p>ことを、確認する。 ・読む人に正しく伝わる文章の構成を意識することを確認する。</p>		
	<p>めあて 友だちの記事を読んで、2年生にわかりやすい記事になるようにアドバイスをし合おう。</p>				
展 開	<p>3. ペアの友だちが選んだ記事とまとめを読み合う。</p>	<p>○一緒に取り組む児童同士の共有ノートで、お互いの選んだ記事やまとめを読み合みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず記事を読んでみよう。 ・記事の内容を理解しないと、アドバイスはできないな。 ・友だちの選んだ記事はどんなことを伝えたい記事なのかな。 ・どんなことがまとめにあれば伝えたいことがわかるのかな。 ・この記事の要旨はこういうことなんじゃないかな。 ・こんな言い方はどうかな。 	<p>・ロイロノートにて、共有ノートにそれぞれが投稿し、まず記事について読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もとの記事と記事をまとめたものを見比べ、内容が妥当か、よりよい記事にできないかをアドバイスし合うことを確認する。 	<p>クロームブック (ロイロノートの班の共有ノート) アドバイスカード(ロイロノートのテキスト)</p>	20
	<p>4. 友だちのアドバイスを生かして、記事を推敲する。</p>	<p>○アドバイスをもらったことを生かして書き直したり加えたりしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番伝えたい文を入れてみよう。 ・5W1Hの「どのように」が読み取れる文をつけ加えてみよう。 ・ここの言葉の使い方をもっとわかりやすいように変えてみよう。 	<p>・言葉の言い換えの例として、いくつかを例示する。「検討」→「考える」など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き手の意図・読み手の考えの意見交流をする。 ・友だちからのアドバイスを生かして、要旨のとらえ方や書き方を新しく変えてよいことを伝える。 	<p>アドバイスのポイント (黒板に掲示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①5W1Hが入っているか ②読み手に1番伝えたいことが書かれているか ③2年生が読める文章になっているか ④記事をすすめる理由が書かれているか 	10
			<p>評価 2年生向けの記事を、友だちの意見を生かしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p>		

終末	5. 本時のまとめをする。	○話し合う前と後で、変わったところがありますか。 ・伝えたいことの文を付け足しました。 ・言葉の使い方で分かりづらいものがあつたので、分かりやすくなるように直しました。	・話し合いを通して、よりよくなったと思う箇所について問う。	5
	6. 本時の学習をふり返る。	○今日の学習で感じたこと・自分の伝えたいことを相手に伝わるように文章を工夫することについて感想を書きましょう。	・2～3人に指名する。	5

7 児童生徒の反応

- ・あらかじめ2年生にとつたアンケートをもとに、相手意識を持ちながら友だちと一緒に伝わる文章づくりに意欲的に取り組んでいた。
- ・記事から要点を抜き出しやすい「まとめシート」をうまく活用している姿がみられた。
- ・記事の事実だけでなく、選んだ理由や感想を付け足すなど、記事の価値にふれることができた。
- ・子どもたちと記事を直すポイントを確認したが、漢字を平仮名に直すなど、表記の変換に終始してしまう児童が多くみられた。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

本年度は、研究指定校1年目ということもあり、子どもたちの学習に新聞をどう活用させたらよいかを中心に研究を進めることにした。児童の発達段階に合わせて活動テーマを決めだし、単元内での効果的な活用場面やタイミングについて、実践を重ねながら研究してきた。国語科や生活科、総合的な学習の時間を中心に、子どもたちの主体的な学び・探究的な学びを引き出すアプローチの1つとして、ある程度成果を見出すことができたと思う。子どもたちが自ら問いや願いをもって学習をより探究的に進めるためには、「新聞ありき」の学習にならないことや、新聞を活用する必要感をもたせることが不可欠になることも示唆された。また、シンマイ EGG を利用することで、新聞づくりのフォーマットが容易に得られたり、デジタルアーカイブの活用が可能になったりして、学習の幅が大きく広げることができた。アナログとしての紙面の活用や記事との出会いも大切に、デジタルとアナログの両方が選択できる環境づくりを整えたい。これからも引き続き、効果的な活用場面について研究を深めていきたい。